

# Economic Indicators

発表日: 2021年10月1日(金)

## 主要経済指標予定(2021年10月4日~10月8日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部  
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(10月4日~10月8日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
10月4日 (月)	8:50 9月マネタリーベース (前年比)	—	—	—	+14.9%
	8:50 9月短観業種別計数及び調査全容				
10月5日 (火)	8:30 9月消費者物価指数(都区部) 東京コア(前年比) 東京総合(前年比)	+0.2% +0.2%	+0.2% +0.0%	0.0%~+0.3% ▲0.3%~+0.5%	0.0% ▲0.4%
10月6日 (水)					
10月7日 (木)	14:00 8月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+0.5%
	14:00 8月景気動向指数・速報 CI一致指数(前月差) CI先行指数(前月差)	▲2.9pt ▲2.1pt	▲2.9pt ▲2.2pt	▲3.4pt~▲1.8pt ▲2.5pt~▲0.6pt	▲0.2pt ▲0.1pt
10月8日 (金)	8:30 8月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	+0.6%
	8:30 8月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比) 実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	▲1.1% +0.1%	▲1.2% —	▲4.5%~+3.5% —	+0.7% +5.3%
	8:30 8月家計消費状況調査				
	8:30 8月家計消費単身モニター				
	8:50 8月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+16,922	+15,180	+12,020~+18,334	+19,108
	13:30 8月特定サービス産業動態統計調査				
	14:00 9月景気ウォッチャー調査 現状判断DI(季節調整値) 先行き判断DI(季節調整値)	37.9pt 45.0pt	44.2pt 50.4pt	37.9pt~53.2pt 45.0pt~55.1pt	34.7pt 43.7pt



**9月都区部消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比 +0.2% 中央値：同 +0.2%**

CPI コアは前年比+0.2%と、前月から0.2%Ptの改善を予想する。既往の燃料価格の上昇が遅れて反映されることで電気代・ガス代が上昇することが押し上げ要因になる。先行きも、エネルギー価格による押し上げを主因として、CPIはプラス幅を徐々に拡大させる可能性が高い。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

**8月景気動向指数 C I一致指数／C I先行指数 当社予想：前月差 ▲2.9pt／▲2.1pt 中央値：同 ▲2.9pt／▲2.2pt**

CI一致指数は前月差▲2.9ポイントと、大幅に低下すると予想する。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数など、生産・出荷関連による押し下げが大きい。半導体不足や東南アジアからの部品調達難により自動車が大規模な減産を行ったことが影響している。なお、内閣府によるCI一致指数の基調判断は6ヶ月連続で「改善」が予想される。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

**8月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） 当社予想：前年比 ▲1.1% 中央値：同 ▲1.2%**

実質消費支出は前年比▲1.1%と減少に転じると予想する。新型コロナウイルスの感染が急拡大したことで外出手控えの動きが強まり、8月の消費は落ち込んだ可能性が高い。財、サービスともに悪化した可能性が高いが、特にサービスの落ち込みが大きくなるとみられる。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

**8月国際収支・経常収支（原数値） 当社予想：16,922億円 中央値：15,180億円**

8月の経常収支は、16,922億円（原数値）の黒字と予想する。自動車を中心に輸出ペースが鈍化し、貿易収支が赤字転化することで、経常収支の黒字幅は縮小する見込み。先行きについては、9、10月も部品不足による自動車関連の減産が予想されるため、目先の輸出は下振れる可能性が高く、輸入が輸出を上回ることによって貿易収支は赤字での推移となるだろう。経常収支も黒字幅を縮小させる可能性が高い。

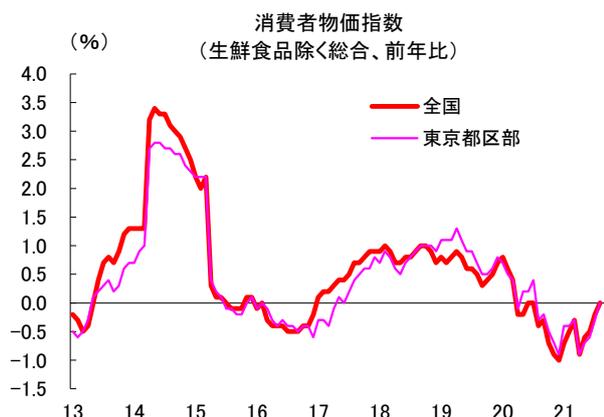
（副主任エコノミスト：大柴 千智）

**9月景気ウォッチャー調査 現状判断DI／先行き判断DI（季節調整値） 当社予想：37.9pt／45.0pt 中央値：44.2pt／50.4pt**

9月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを37.9pt、先行き判断DIを45.0ptと予想する。現状判断DIは、9月は緊急事態宣言が全国的に発令されていたことが下押しするも、下旬にかけて感染者数が徐々に落ち着いてきたこともあり、小売等の家計関連を中心に先月より上向くだろう。先行き判断DIについては、ワクチン進展期待に加え、10月以降の緊急事態宣言の解除による先行き期待から、前月から上向くだろう。

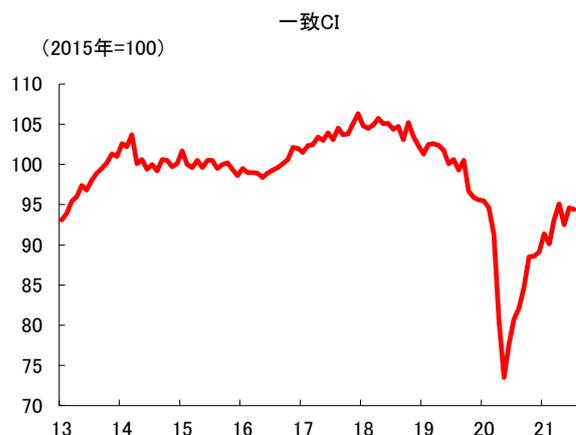
（副主任エコノミスト：大柴 千智）

図表1



(出所)総務省「消費者物価指数」

図表2



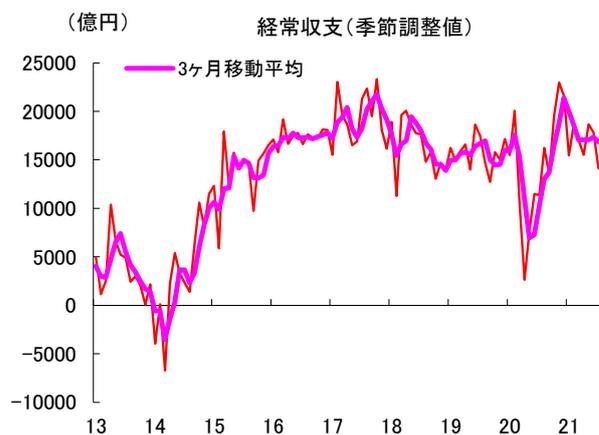
(出所)内閣府「景気動向指数」

図表3



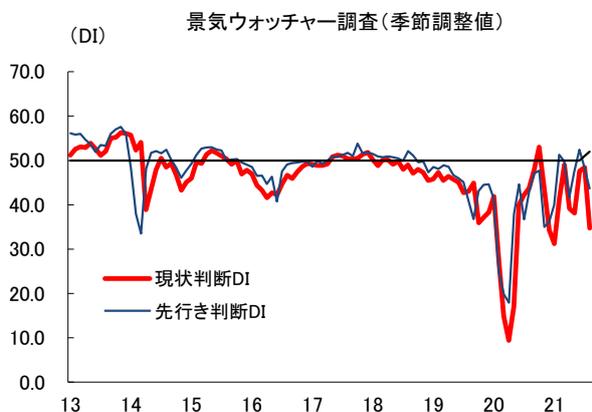
(出所)総務省「家計調査」

図表4



(出所)財務省「国際収支統計」

図表5



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

